

1 教育委員会事務の点検・評価について

(1) 趣 旨

効果的な教育行政の推進を目的に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成20年度から、毎年、教育委員会の権限に属する事務の執行状況について、学識経験者の知見を活用し、点検・評価を行い、その結果を取りまとめ議会に提出するとともに、公表することとなりました。

川北町教育委員会は法の趣旨に則り、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たし、住民から信頼される教育行政の推進を目指していききたいと考えています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第27条1 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するものとする。

(2) 対象年度

令和3年度に実施した教育委員会主管の主要な事務事業を点検・評価の対象とします。

(3) 実施方法

- ① 教育委員会が事務局となり、活動事項と教育長に委任する事務事項に区分整理し、点検・評価し今後の課題についてまとめました。
- ② 教育長に委任する事項については、教育委員会事務局各課の主要事務事業を、10項目の評価シートに抽出分類し、個々に自己点検・評価した内容から、今後の課題を提起しました。尚、主要事務事業の詳細については『令和3年度 川北町の教育』をご参照ください。
- ③ 上記により取りまとめた評価シートを項目ごとに客観的視点を確保するために学識経験者として、川北町の教育行政にご理解ある次の方々に依頼し、ご意見をいただきました。また、ご意見をいただいた内容につきましては、今後の川北町教育委員会活動の参考にさせていただきたいと考えております。

氏 名	公 職 等
森元 芳朗	元中島小学校 校長
寅若 雄一	令和4年度 川北町社会教育委員長
佐々木 眞澄	令和4年度 川北町女性協議会 会長

2 教育委員会会議及び活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況及び審議等事項

川北町教育委員会は「川北町教育委員会会議規則」第3条の規定に基づき、以下のよう
に15回の定例会及び臨時会を開催いたしました。また「地方教育行政の組織及び運
営に関する法律」第23条に規定される職務権限及び「川北町教育委員会教育長に対す
る事務委任規則」の規定に基づき、以下のように審議しました。

開 催 日	会 名	内 容
4月 6日 (火)	定例会	川北町教育目標及び基本方針について 小・中学校入学式 (欠席) 教職員辞令交付式 (中止)
5月 11日 (火)	定例会	令和3年度児童生徒就学支援について
6月 1日 (火)	定例会	当面の諸問題について
7月 16日 (金)	定例会	教科書採択について 川北町 PTA 連合会要望事項について
8月 18日 (水)	定例会	当面の諸問題について
9月 22日 (水)	定例会	当面の諸問題について
10月 11日 (月)	臨時会	教育委員会組織について 当面の諸問題について
10月 15日 (金)	定例会 研修	当面の諸問題について 石川県市町教育委員会連合会研究大会参加
10月 25日 (月)	研修	加南地区教育委員会連絡協議会研究大会参加
11月 11日 (木)	定例会	当面の諸問題について 中島小学校計画訪問参加
12月 2日 (木)	定例会	学校予算ヒアリング 当面の諸問題について
1月 8日 (土)		成人式出席 (職務代理のみ)
1月 18日 (火)	定例会	当面の諸問題について
2月 4日 (金)	定例会	立志式 (職務代理のみ) 当面の諸問題について 私立高校出願状況
3月 11日 (金) 3月 17日 (木)	定例会	中学校卒業式 (教育長のみ) 小学校卒業式 当面の諸問題について 令和4年度予算について 公立高校出願状況

(2) 教育委員会活動の概要

① 学校訪問

- ・ 教育事務所計画訪問日に合わせて授業参観などの訪問（各学校、年間1回）を合計4回予定したが、今年度はコロナ対応により、中島小学校のみを実施した。
- ・ 新年度予算編成に際する各学校訪問を12月に実施した。
- ・ 入学式、運動会、中学校卒業式は新型コロナ感染防止策のため縮小し出席した。

② その他の行事

- ・ 令和3年度総合教育会議を1月18日（火）に開催した。
- ・ 町表彰、成人式、立志式は職務代理のみ出席した。町制記念綱引き大会、町社会体育大会、等の行事は新型コロナ感染防止策で中止となった。
- ・ 野々市市で開催された県市町教育委員会連合会総会及び研修会、加賀市で開催された南加賀地区教育委員会連絡協議会に参加した。
- ・ 県中学校体育大会は無観客で開催され、教育委員等の選手応援は中止した。
- ・ 教育委員会セミナーは実施され、参加した。

(3) 自己評価及び学識経験者からの意見

- ・ 教育委員会会議では、教育目標や方針は勿論のこと、予算をはじめ学校現場の実情や課題等についても細かく報告し、必要に応じた協議を行う。また緊急性を要する事案に関しては、教育長の判断により臨時教育委員会会議を開くこととしている（令和3年度は10月に臨時会議を開催）。
- ・ 学校の休校や学級閉鎖の措置については、教育委員との連絡を密にし、状況報告を行った。
- ・ 毎年町PTAの方々から要望を聞く意見交換会を設けているが、教育政策に反映可能な範囲で検討することを伝えるとともに、引き続き理解と協力をお願いした。
- ・ コロナ禍の中、学校訪問が難しい状況もあったが、できる範囲で各種行事に出席し、教育現場の状況把握に努め、教育行政に反映できるよう努めた。行事のみならず、普段から状況確認を許される範囲で積極的に行った。
- ・ 1月に町総合教育会議を開催し、今年度の取り組みの検証と次年度に向けての重点施策、GIGAスクールの進捗状況、社会教育の取り組みなどについて協議した。
- ・ 川北町の教育活性化を目指した毎年校長会と合同の県外先進校視察は、新型コロナ感染拡大の状況もあり中止とした。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ①

学校教育関係	(1) 学校一般事業について	担当	学校教育課
目 標	学校における教育活動が円滑に進められるように努める。		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学式（4月6日） 規模を縮小、コロナ対策を万全に対応するよう指示した。 <ul style="list-style-type: none"> ・中島小14名、川北小39名、橘小28名、川北中83名が入学。式は規模を縮小して実施した。 ○ 修学旅行 児童生徒の意見も取り入れ、思い出となる行事となるよう指示した。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校 10月 コロナ禍の中、広島・関西方面の修学旅行は中止し、能登方面に日帰りを実施された。 ・小学校 10月 中島、川北、橘小学校6年生がそれぞれの日程で能登方面に日帰りを実施された。 ○ 運動会 外での実施ではあるが、対策を万全に準備、運営するよう指示した。 <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校は10月、中学校は5月に運動会、スポーツフェスティバルを半日開催した。ともに、保護者の参観数を縮小した。 ○ 児童生徒の健康診断 学校医の意見も聞きながら実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月にかけて各学校で予定通り実施した。 ○ 令和4年度新入学児童 就学児健康診断 <ul style="list-style-type: none"> ・対象は保育所年長組で、10月に実施した。 ○ 教育支援委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や就学相談等の機会を捉え、就学については丁寧に対応した。 ・12月に開催し、対象となる児童生徒について検査結果に基づき協議した。 ○ 入学説明会 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象に各学校で1月に実施した。 ○ 北光賞選考委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成2年度（第1回）からスタートし、今年で第32回を迎え、今年で50名の方々が受賞された。 ○ 川北町スポーツ賞 <ul style="list-style-type: none"> ・1団体、そして数多くの個人がスポーツ奨励賞を受賞された。 ○ コロナ感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・現状に即しタイムリーに保護者への注意喚起や、基本的な感染症要望対策の周知を一斉メールで行なった。 			
教育委員会点検・評価及び今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、学びを止めないことを念頭に置き、対策を講じ工夫しながら授業や行事等を行うことを基本とした。 ・昨年度より小中学校の入学式を午前と午後の実施とした。各校で不都合はなく、きょうだいのいる保護者の参加も得られている。 ・小中学校の運動会は新型コロナ感染に伴い、感染対策を十分に取りながら午前半日で開催した。児童・生徒の思いを大切に大変素晴らしい運動会であった。 			

マスクの着用はあったが、保護者が見学する場所が十分に確保できず、一部密になる状況が見られたことが懸案である。

- ・令和3年度の児童・生徒の健康診断は4月より例年通り年度当初に実施され、児童・生徒の健康状態を把握し、学校生活での安全・安心が確保された新年度のスタートとなった。
- ・小学校の入学説明会を、新就学の保護者を対象に小松市白江こども未来園副園長の林 貴子氏（元川北小校長）を迎え「小学校入学前に今だからできること 今しかできないこと」について講演を行った。小学校入学前の家庭教育の必要性について保育所と小学校の生活の違いをもとに分かりやすく説明があり保護者からも好評であった。今後も学校との連携を図る意味でもこの事業は継続していく必要がある。令和4年度からは改めて講師を選定する必要がある。
- ・感染者が出た場合、必要に応じ学級や学年、休校で対応し、校舎の消毒を行った。
- ・現状を整理しながら地域の教育力を活かし、開かれた教育課程の実現に向けた体制づくりを進める必要がある。

（課題）

- ・今年度の小学校合同で行う修学旅行は新型コロナ感染策として、学校ごとに日帰りで実施したが、県内では見学場所などが限定される。
- ・中学校の修学旅行も県内の日帰り旅行となった。キャリア教育の視点を取り入れるなど工夫はあったが、小学校と行き先が同じ方面となることが課題であった。
- ・コロナの状況にはよるが、修学旅行の持ち方は小中学校ともに検討課題である。コロナ感染等の状況を見ながら、小学校でも近隣の県も修学旅行先として認めるかどうか検討する必要がある。
- ・コロナ対応については県内、地域の状況を勘案しながら、安全や安心を第一に今後とも進める必要がある。また、対応については、保・小・中の連携が必要である。
- ・地域の教育力を活かすこととして、学校評議会制から学校運営協議会への移行について検討する必要がある。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ②

学校教育関係	(2) 学校教育活動の推進	担当	学校教育課
目 標	心豊かで、幅が広く、厚みのある「確かな学力」の向上をめざす。		
○ 学校研究の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、「令和3年度 川北町の教育」P28～51参照 ・学校の状況に合わせ、今求められる授業の姿、学力向上や授業改善に向けた取り組みを実施した。 			
○ 学力向上に向けての取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ・若手の育成は喫緊の課題であり、各校において年度当初計画した「若手育成プ 			

プログラム」に従い、ニーズに応じた研修が実施された。特に GIGA スクール構想に関連した ICT 機器を利用した授業づくりなどの研修が進められた。

- ・各学校での校内研修等に相互参加することで、教員の授業力向上を目指した。小学校において、相互参加の後、連絡を取りながら共通実践を進めたケースがあり、今後の連携のあり方の範となった。
- ・町学力テスト実施（小1～6年、国語、算数、中1年、国語、数学、2年、社会、英語）した。

○ GIGA スクールの推進

- ・令和4年度の活用段階に向け各校推進教諭が実践や課題交流、協議した。

○ SDG's の推進

- ・ブンブンボウルによる勉強会を小学校は5、6年生、中学校は2年生対象に実施した。今日的な課題であり、身近なところでの実践という視点で、教育活動に位置付ける必要がある。

○ 『特色ある学校づくり』推進事業（H21～）を生かし、学校経営方針に基づき、各校の特色ある教育活動に取り組んだ。

○ 特別支援教育の充実

- ・特別支援学級の設置（川北小2学級、橘小2学級、中島小1学級、川北中2学級）
- ・自閉症、ADHD、LDなどの発達障害を持つ児童生徒のために特別支援教育支援員を小学校に7名、中学校に1名配置した。
- ・他校からの通室の受け口となる川北小学校の通級教室に通室する児童の数が、増加の傾向にある。

○ 国際理解活動の普及

- ・「川北町中学生国際交流の翼」（ニュージーランドのアワタブ中等教育学校との交流）はコロナ感染症のため令和3年度も中止となったが、3月にはオンラインでの交流を実施した。
- ・タブレットを使った「英語4技能テスト」と外国人講師と直接会話ができる「OST事業」を継続して5年目となった。「OST事業」については、その効果を検証すべくアンケートを実施した。外国語活動に対する興味や関心など、肯定的に捉えている回答が大変多く見られた。

<アンケート結果>

「OSTは楽しかった」小学校6年生：76% 中学校3年生：83%

「またOSTをやってみたい」小学校6年生：75% 中学校3年生：87%

○ 生徒指導の充実

- ・町学校教育研究会生徒指導部を中心に教員研修の充実に努めた。
- ・県教育センターのスクールカウンセラー事業を活用し、教育相談の充実に努めた。（2名配置）また、必要に応じ県SSWの派遣を要請し対応を協議した。
- ・いじめ、不登校への対策として、普段より教育相談を充実したり、教育相談週間を学期ごとにもうけたりし、常に情報の収集と早期対応に努めた。さらに、

いじめ対応アドバイザーを招聘した研修を年2回実施することや、いじめの積極的な認知に努め、各校常設されたいじめ問題対策チームによる組織的な対応に努めた。

○ 開かれた学校（地域の教育力の活用）

- ・感染症対策を講じながら、それぞれの学校で学校公開日を設けた。保護者の参観にも制限がある中で、地域住民の方々への公開は見送った。
- ・感染状況を見極め、できる限り地域の方にゲストティーチャーとして授業へ参加していただいた。 ※いずれも、コロナ対策を講じながら縮小して実施。

○ 学校の危機管理

- ・火災、地震、水害（屋上への避難）、不審者対応（能美署より講師）などの避難訓練を行なった。
- ・県内一斉のシェイクアウトいしかわへ参加した。

○ コロナ禍における学習保証について

- ・ICT機器の持ち帰り、利用を想定した準備を進め、自宅での学習、保護者との懇談等に利用した。

教育委員会点検・評価及び今後の課題

- ・各校の経営計画に基づき、学校研究が推進された。タブレットの活用を通し、個別最適化、協働的な学びの実現に向けた研修をさらに進める必要がある。
- ・約7割が30代以下の小学校、6割が30代以下の中学校の学校現場において、若手育成は喫緊の課題である。授業力、生徒指導・児童生徒理解力の育成など、経験を通じて培われるものではあるが、組織の中に育成の意識を高め、管理職、主任、ベテラン教諭を中心としたOJT等を計画的に進めたり、さらに組織内での意識を高めたりしながら進めていく必要がある。
- ・学校教育アドバイザーを小中学校へ派遣し、中堅研修対象者（11年目までの教諭）までの指導助言や相談を行う。

採用から11年目までの教員数：小学校 11名 中学校 3名

小学校平均年齢：33.9歳 中学校平均年齢：38.6歳（令和4年4月）

* 平均年齢は、管理職、再任用教諭、講師、事務職員を除く

- ・町学力テストは標準テストであり、児童・生徒の学力の状況を知るとともに、指導改善に生かす有効な機会となっている。詳細な分析結果を得られることもメリットである。
- ・GTEC（英語4技能テスト）を小6、中2に実施したが、実施時期が1月にずれた結果、分析が遅れその後の活用に時間確保が難しかった。
- ・コロナ禍での学校生活の変化が、子ども達に与えた影響は少なからずあるが、それぞれの学校で感染症対策を講じながら工夫が功を奏し、制限はあるが学びを止めずに活動が継続されている。オンラインを利用した授業も小中学校で行われた。中学校では、3年生の受験への対策として、3日間のオンライン授業で対応した。

- ・保護者や地域の方々を迎えた学校公開や授業での活用は感染症の状況もあり縮小されたが、教育的な効果は大きく、今後も状況を判断しながら実施する必要がある。
- ・コロナによる影響を調査するアンケートを実施し、各小中学校へ個人の回答状況を含め結果を返した。直接コロナ禍との因果関係は断定できないが、個別に対応することを指示するとともに、今後も継続しアンケートを行い状況の推移を見守りたい。

<アンケート結果（5月）>

「なかなか眠れない、夜中に目が覚める」

小学校1～3年：12% (21/170) 小学校4～6年：6% (14/205)

中学校1～3年：10% (24/228)

「やる気が出なかったり、楽しくないと感じたりする」

小学校1～3年：9% (16/172) 小学校4～6年：11% (21/199)

中学校1～3年：18% (40/227)

「頭やお腹が痛かったり、体の調子が悪かったりする」

小学校1～3年：13% (21/169) 小学校4～6年：10% (20/206)

中学校1～3年：13% (30/229)

「不安になったり、悲しくなったりする」

小学校4～6年：6% (14/205) 中学校1～3年：11% (25/229)

「困ったことがあったときは一人で悩まず誰かに相談している」

小学校4～6年：47% (98/211) 中学校1～3年：52% (121/231)

- ・いじめのない学校づくりを目指し、日頃から積極的な生徒指導の展開や、児童生徒の見守りと情報共有をおこなった。また、アドバイザーを迎えた事例検討を行うなど研修に努めた。また、積極的にいじめを認知し、未然防止や初期対応に努めるよう指導を行う。
- ・各校においては、**QU** を利用した面談週間を設定したり、**SC** を積極的に活用したりし、児童・生徒、保護者の教育相談を行なった。
- ・県派遣の **SSW** の積極的に利用する事例も見られた。
- ・通級指導教室が川北中学校に開設され、小中一貫した教育の充実が図れた。

(課題)

- ・今後も若手が増える状況にあり、意図的・計画的に研修を継続する必要がある。
- ・**GIGA** スクール構想では **R4** 度からは本格活用としている。利用する頻度は高まっているが、個別最適化、協働的な学習に向けた効果的な活用方法に関する研修を進める必要がある。
- ・町学力テストを授業づくり、指導法の改善にどのように生かしたか検証の必要がある。
- ・**GTEC** (英語4技能テスト) は2学期中に実施し、結果の分析をその後の授業に活かせるようにする。

<GTEC 結果> 令和3年度中学校卒業生

英検3級相当者数：87% (88/101)

*GTECの結果を英検に当てはめた場合

- ・個に応じた支援を必要とする児童が増加し、専門性を持った教師の育成が急務で

ある。また、川北小学校以外にも通級教室開設が必要である。

- ・アワタブ中等教育学校（ニュージーランド）とのオンライン交流が進められないかが検討課題である。
- ・地域の力を活かした教育が本町では行われており、コミュニテイスクール開設を目指し準備する必要がある。
- ・部活動の地域移行の動きに合わせ、関係団体等との協議を進め、準備を始める必要がある。また、地域、保護者への情報提供も必要である。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ③

学校教育関係	(3) 学校施設設備について	担当	学校教育課	
目 標	安全で安心して教育活動ができるよう、学校施設設備の充実に努める。			
○ 安全管理の充実				
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校単位で、ボランティアとして「見守り隊」（約100名が登録）を結成し、児童の防犯パトロールを行なっている。 ・通学路の安全点検を学校、国・県・町道路管理者、警察、通学路アドバイザーと合同で実施した。 				
R3 実施状況 *町 HP に掲載済み				
地区	指摘箇所	対策済み	対策中・予定	検討予定
中島小学校	8	3	1	3
川北小学校	6	2	1	3
橘小学校	6	3	0	3
<ul style="list-style-type: none"> ・例年のように、学校遊具の安全点検を業者に委託し実施した。 ・児童生徒の安全を確保するため、学校修繕の予算確保にも努めた。 				
○給食備品の整備について				
<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度に向けて、空調の整備や捕虫器の設置予算を計上した。 				
○プールでの事故防止について				
<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の授業における事故防止のため、複数名での監視を確認した。 				
○GIGA スクール体制の保守について				
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台タブレット端末（742台）の保守について、ソフト、ハード面から支援する体制を整備した。 				
○コロナ感染対策について				
<ul style="list-style-type: none"> ・非接触型アルコール消毒器を設置した。（各校5台） 				
教育委員会点検・評価及び今後の課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の不審者情報についても、一斉メールにおいて学校や保護者との情報共有、注意喚起に努める。 ・不審者情報もあり、学校・家庭・警察が情報を共有しながら連携を強化し、今後とも児童の安全な登下校の確保に努める必要がある。 ・貸し出し用Wi-Fiルーターを購入して家庭学習の確保に備えた。令和3年度 				

の利用は2件であった。

- ・蜜を避けるコロナ感染防止策として、非接触型アルコール消毒器を増設した。非接触型の体温測定器については令和4年度に増設予定である。

(課題)

- ・不審者情報等を見守り隊と共有するための方法を検討する必要がある。
- ・通学路の危険個所の対策等、川北町ホームページに毎年更新してあるが、保護者や見守り隊にも記載を周知する必要がある。
- ・GIGA スクールの端末の故障や破損などの保守について、ルールの設定が必要である。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ④

社会教育関係	(4) 社会教育活動について	担当	社会教育課
目 標	子どもから大人まで気軽に参加できる事業・行事の開催をめざす。		
○ 第27回川北さくら祭りは(手取川健康ウォークラリー)は感染防止策を講じ規模を縮小し開催した。ジュニアクラブの開校式も行ったが、さくら餅の配布は行わなかった。			
○ いきいき体験ウィークは感染症対策を講じながら実施した。			
○ 前期青少年講座(初級英語教室、小学生英会話教室、親子英会話教室)、後期青少年講座(初級英会話教室、中・上級英会話教室)は感染症対策を講じながら実施した。			
○ 国際交流関係			
・ 青少年講座に対象者を工夫し英語教室を開設した。親子英会話教室は申し込みがなく開催できなかった。			
・ 今年で34回目のジャパンテントは新型コロナ感染防止策として中止となった。			
・ 日本語教室はコロナ禍のためやむを得ず中止とした。			
○ 人権教育関係			
・ 中学校では「わかかカフェへようこそ」を鑑賞し、人権について考えた。			
○ 樺光学級			
・ 感染症対策を講じながら、3回実施した。			
7月 1日「笑う終活」浜崎泰彦 氏			
11月18日「相続とかしい遺産分割」新喜章弘 氏			
12月 3日「長寿時代を自分らしく輝いて生きよう」竹内泰子氏			
○ 文化祭			
・ 町内各種文化団体より出品展示した。			
作品出展数 約400点 当日参加人数 約700名			

- ・「文化の日」記念講演は、スタンフォード大学 教授 西野 精治 氏による演題「睡眠管理で活力のある生活を！究極のスリーピング・プログラム」として記念講演を実施した。

尚、コロナ対策のため、講演はケーブルテレビにて放映された。

○ 成人式

- ・成人式実行委員会が自主制作した手作りビデオを上映した。

成人者92名のうち、79名の出席（85.9%）

○ 立志式

- ・川北中2年生92名、教育長並びに職務代理が出席し、コロナ対策を行いながら中学校体育館で実施した。予定していた坂本 和哉 氏による講演「何が好きかな？」は延期とした。

○ 男女共同参画事業

- ・4月に第一回総会が予定されていたが、コロナ禍のため中止とし、年度末の3月に活動方向等のまとめの会を実施した。

○ 自治公民館活動

- ・新型コロナ感染防止策として地区運動会、町制記念綱引き大会、町社会体育大会、地区講演会等は中止とした。文化祭、館報の発行、花いっぱい運動などを実施した地区（6地区）もある。

教育委員会点検・評価及び今後の課題

- ・川北さくら祭りは開催されたが、ジュニアクラブ開校式、櫻光学級等（一部実施）をやむを得ず中止とした。今後も状況を見極めながら開催したい。
- ・文化祭は新型コロナ感染防止策を十分にとった中で、町内各種文化団体から作品展覧会を実施した。記念講演は、コロナ禍の中での開催方法を検討する必要もある。
- ・成人式はコロナ渦であったが感染対策を十分とった中で実施することができた。2部についても成人式実行委員が早くから準備を進めた手作りDVDを上映することができた。式後、時間を決めて大ホールを解放し、再会を喜ぶ姿が多く見られた。
- ・男女共同参画事業のうち、大型ショッピングセンター前でパープルリボンキャンペーン活動を行ったり、文化祭の展示場入り口にてコロナ禍における家事分担についてのアンケートを行い分析したりした。

「コロナ禍でおうち時間が増えましたが、家事分担は進みましたか」

<進んだ> ○男性 10人/25人（40%） ○女性 10人/37人（27%）

<変わらない（分担できていない）>

○男性 7人/25人（28%） ○女性 14人/37人（38%）

<変わらない（元々分担できている）>

○男性 8人/25人（32%） ○女性 13人/37人（35%）

- ・延期となっていた立志式での講演は、令和4年5月27日、全校生徒に対して実施された。
 - ・町の花「かわらなでしこ」の苗を、各区、町内施設に配布した。学校では、児童生徒が植栽に汗を流した。
- (課題)
- ・成人年齢の引き下げに伴い、成人式の開催年齢の決定やそれに伴う式の名称変更を協議する必要がある。他市町の動向も見極めながら決定する。
 - ・今年度も新型コロナ感染防止策として多くの社会教育活動の中止を余儀なくされたが、今後も開催の有無については関係者と十分に協議の上、安全・安心を第一にし、地域の感染状況を踏まえながら実施可能かどうか判断していきたい。
 - ・日本語教室スタートアッププログラムは、コロナ禍の状況を見極めながら実施する必要がある。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ⑤

社会教育関係	(5) 青少年教育	担当	社会教育課
目 標	心豊かで、幅が広く、厚みのある「確かな学力」の向上をめざす。		
<p>○ 第63回全国社会教育研究大会 石川県大会がこまつ芸術劇場うららで行われ、全体会にて「小さいからこそできる川北町を好きになる子どもづくり～かわきたの明日の子どもを育てる町民会議の取り組み～」を発表した。</p> <p>○ 明日の子どもを育てる町民会議関係 町社会教育委員が中心となって推進委員会、専門委員会、総務委員会を組織し企画・運営している。</p> <p>1 1月 子供サミットに向けて 町民会議推進専門委員会 1 2月15日 子供サミット テーマ「私が町長になったら」</p>			
<p>「子供サミット サブテーマ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米津玄師をプロデューサーに依頼し、コンサートホールを設置する。 ○ 川北町を縦断する新幹線と同じ高さの鉄道を敷く。 ○ リサイクルの推進。子供が遊べる公園の設置。 ○ 花を増やす。町全体をバリアフリー化する。 ○ 川北を発信する。 ○ 大きな施設を建てる。 ○ 安全に住みやすい町にしたい。 			
<p>「かわきたの豊かな心を育むみんなの集い」はコロナ感染症対策のため中止した。</p> <p>○ 愛のひと声グッドマナー運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動強化週間（前期6月7日～6月13日、後期9月27日～10月3日） 			

・県のグッドマナーキャンペーンに合わせ町内20ヶ所で街頭指導（9月29日～10月1日）を行い、約330名が参加した。

○ 青少年講座

・前期（4回）9講座 84名、後期（4回）9講座 76名参加があった。

○ 手取川プラン策定委員会

・まちの先生の活用はコロナ対応のために縮小した。

・手取川いきいき教室：第26回桜まつり（250名）、書き初め大会（120名）それ以外の教室はコロナ感染症のため中止した。

・夏休みいきいき体験ウイーク 11講座：211名参加

○ 青少年活動連絡協議会

・町内のスポーツクラブなど11団体の指導者と町、学校関係との日程調整や情報交換、研修会など年間3回の会合を実施した。

○ 家庭教育関係

・町教育講演会：11月12日、写真家 松本紀生 氏による講演を実施した。
演題「オーロラの大地から」

・子育て講演会の実施（中島小、川北小、橘小）社会福祉法人 白江福祉協会 白江こども園副園長 林 貴子氏（元川北小校長）「小学校入学を前に 今だからできること 今しかできないこと」

教育委員会点検・評価及び今後の課題

・今年度の青少年教育（青少年講座、手取川いきいき教室等）は新型コロナウイルス感染防止策として完全実施することができなかった。今後も、状況を判断し、感染予防策を講じながら実施を検討する必要がある。

・夏休み体験ウイーク（物づくり体験）では町内の教職員全員が児童理解の研修の場として参加した。参加の方法等、意見を聞きながら今後も継続していきたい。

・児童・生徒の意見を発表する場としての子供サミットは「私が町長になったら」をテーマに、感染症対策を講じながら文化センターホールで実施した。子供らしい目線での意見交換ができた。

・松本紀生氏の講演は児童生徒に聴かせたいものであった。次年度以降機会があれば講演を依頼したい。

・青少年講座として希望する内容についてアンケートを実施した。

「やってみたいことは何ですか？」

- ・ダンス（K-POP）教室 ・キッチン（クッキング）教室 ・ピアノ教室 ・陸上教室
- ・ドッチボール教室 ・水泳教室 ・イラスト教室 ・漫画実習教室 ・テニス教室
- ・野球教室 ・サッカー教室 ・鉄棒教室 ・バドミントン教室 ・体操教室
- ・手話教室 ・戦後歴史教室

（課題）

・川北の愛の一声グッドマナー運動は年間を通じて、各種団体、学校、生徒会、ジュニアクラブ等が行政防災無線を通して町民に呼びかけをしているが、挨拶の現

状をより良くしていくためにも、継続した取り組みが必要である。

- ・子供サミットでの意見交換を励みとするような講評の場面が必要である。
- ・令和2年度に町民会議全体会で「町の外から見た川北の教育」をテーマにした分科会を設け開催予定であったが、残念ながら開催されず令和4年度への持ち越しとなった。
- ・町民会議の組織や取組について、意見を集約する機会が必要である。
- ・町教育の重点施策として進めている英語教育について親子英語教室を開設したり、プログラミング教育などを取り入れた講座を開設したりしたが、参加希望者が少なく、広報や内容の検討が必要である。

「令和3年度 後期青少年講座 参加者数」

- ・楽しい科学実験教室 13名 ・卓球教室 7名 ・手芸教室 13名
- ・手取穴龍太鼓教室 1名 ・トランポリン教室 9名 ・楽しいお琴教室 5名
- ・バスケットボール教室 14名 ・おしゃれ手づくり教室 11名
- ・プログラミング教室 0名 ・英会話教室 1名

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ⑥

社会教育関係	(6) 女性教育について	担当	社会教育課
目 標	女性としての教養を高め、さらに地域貢献できる人材を育てる。		
○ 合同学級 学級開講式はコロナ禍の中で中止となった。 11月27日(土) 第1回合同学級会 「電気のお話とフラワーアレンジメント教室」 講師：北陸電力職員 参加者：17名 3月25日(金) 令和3年度合同学級閉講式及び総会			
○ 各校下の学級(たちばな学級・なかじま学級・若竹学級) コロナ禍の中で全て中止となった。			
教育委員会点検・評価及び今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として多くの活動が中止せざるを得ない状況となった。 ・地域の中で横のつながりの希薄化が問われているが、女性協議会の活動が改善の一助となればと思う。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化から、女性協議会への参加、事業の継続が難しくなっている現状がある。事業の一つである貸衣装については廃止を決定した。また、文化祭におけるバザーも中止を決定した。 			

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ⑦

社会教育関係	(7) 成人教育について	担当	社会教育課
目 標	生涯を通して学習活動を高めることのできる環境づくりに努める。		
<p>○ 教養・趣味教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期8教室：76名参加、後期5教室 33名参加 (前期) 親子トランポリン教室、ストレッチ教室、和紙手づくりあかり教室、お琴体験教室、アーティフィシャルフラワーアレンジメント、初級英会話教室、小学生英会話教室、親子英会話教室 (後期) ストレッチ教室、フラワーアレンジメント教室、エコクラフト教室 初級英会話教室、中・上級英会話教室 <p>○ 櫻光学級（高齢者学級）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7回の講話を予定していたが、新型コロナのため3回の実施となった。 6/10（木）中止 講師 白山野々市広域消防本部松任消防署川北分署 7/1（木）開校式 『笑う終活講座～笑いヨガで笑いながら、楽しく終活を学ぼう～』 講師 草の根消費者教室講師 浜崎泰彦 氏 8/12（木）中止 講師 栗津神経サナトリウム理事長 秋山典子 氏 9/16（木）中止 金沢方面へ視察研修 10/7（木）中止 講師 金谷酒造店 金谷 芳久 氏 11/18（木）『相続と賢い遺産分割』 講師 相続手続き支援センター石川 新喜章弘 氏 12/3（金）『いくつになっても輝いて生きよう』 講師 元北陸放送アナウンサー 竹内泰子 氏 3/4（金）中止 講師 健康管理士 中嶋佳奈恵 氏 			
教育委員会点検・評価及び今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・櫻光学級は感染症の状況を見ながら判断し、結果として3講座を開設することができた。櫻光学級の参加者は高齢者が中心なので感染した場合のリスクを考えながら実施を検討する。 (課題) ・櫻光学級の講演内容は教養、歴史、文化と幅広く、内容も今日的に参考になるものを中心に設定した。参加型のワークショップの検討はコロナの状況を見ながら検討する必要がある。 ・櫻光学級には現在老人会を中心に参加案内を出している。スマートフォンの普及により安全な操作について等、身近な内容を今後も検討していく。 ・広く一般町民への案内も、これまで通り町広報や防災行政無線を通して呼びかける。 			

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ⑧

社会教育関係	(8) 社会体育関係	担当	社会教育課
目 標	明るく豊かな生活を支えるスポーツを推進することにより、町民の健康増進に努める。		
<p>○ 会 議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会常任理事会（3回）実施。総会は書面表決とした。また、理事会（3回）は中止となった。 ・県スポーツ委員協議会役員会・理事会・研修会、県スポーツ推進委員会、加南地区スポーツ推進委員連絡協議会役員会は開催、北陸地区数スポーツ推進委員研修会(富山開催)、全国スポーツ推進委員研究協議会（佐賀開催）は中止となった。 <p>○ 町民健康・スポーツチャレンジ：中止</p> <p>○ 川北町いきいき体力測定：中止</p> <p>○ 川北町老人クラブ連合会レクリエーション大会：中止</p> <p>○ 第32回川北町町制記念綱引き選手権大会：中止</p> <p>○ 第54回町社会体育大会：中止</p> <p>○ 第74回草深甚四郎慰霊剣道大会：中止</p> <p>○ スポーツ推進委員（10名）</p> <p>町の体育関係行事に推進委員として積極的に参加し、指導に当たっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町、加南、県、全国のスポーツ推進委員研修会に積極的に参加し研鑽に努めている。 <p>○ 川北町体育協会単位協会（17単位協会）</p> <p>野球協会、バレーボール協会、ソフトボール協会、剣道協会、相撲協会 卓球協会、スキー協会、ウエイトリフティング協会、バスケットボール協会 ゲートボール協会、ゴルフ協会、テニス協会、トランポリン協会、 グラウンドゴルフ協会、サッカー協会、陸上協会、パークゴルフ協会</p> <p>○ 準加盟クラブ</p> <p>なぎなたクラブ、バウンドテニスクラブ</p> <p>○ 多目的運動公園（仮称）の整備事業</p> <p>コンセプト「気軽に取り組めるスポーツ活動の充実」「スポーツ活動施設の充実」 「子供の遊び場の充実」「防災などの拠点地区」に寄与できるよう、ハードやソフト面の整備を図る。</p>			
教育委員会点検・評価及び今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に続き、新型コロナ感染防止策として川北町町制記念綱引き選手権大会、町社会体育大会、草深甚四郎慰霊剣道大会を中止とした。コロナ禍の中、町民の健康・親睦を目的とした行事も模索することが必要である。 ・草深甚四郎慰霊剣道大会について、今後の開催について検討を進める必要がある。 			

- ・町制記念綱引き大会は、綱引き連盟によるコロナ対策の規定が厳しく、開催について検討を進める必要がある。
- ・各種スポーツ団体主催の事業が年間を通して数多く実施されており、健康増進や会員相互の親睦をはかる意味でも引き続き援助していきたい。
- ・令和4年度 県民体育大会で川北町がバウンドテニスの会場となっている。

(課題)

- ・町社会体育大会は毎年多くの町民の方が参加し、盛況になってきている。コロナ対策はもちろんであるが、幅広い年齢層の方も参加できる種目も検討していく必要がある。
- ・町体育協会は現在17単位協会で構成されており、会員が中心になって活動を続けている。令和5年度に向けてスポーツ庁が推進する中学校の休日の部活動指導の見通しと、地域スポーツの活性化を視野に入れて、今後中学校やジュニアクラブとの連携も考えていく必要がある。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ⑨

社会教育関係	(9) 文化団体活動関係	担当	社会教育課
目 標	文化活動を通して、心豊かな住みよい町づくりに努める。		
○ 町文化祭（11月3日）			
・ 作品展示のみ開催した。			
作品出展数 約400点 当日参加人数 約700名			
○ 第24回芸能発表会（11月）：新型コロナ感染症のため中止した。			
○ 作品展示			
・ 町文化センター1階ロビーを活用し作品展示をした。			
○ 川北町文化団体協議会（登録人数280名）			
・ 川北町生花会	20名	・ 川北町囲碁クラブ	18名
・ 川北町菊盆栽会	休会	・ 書道協会	9名
・ 川北町将棋愛好会	14名	・ 川北町俳句協会	10名
・ 野の海短歌会	14名	・ 民謡協会	12名
・ こまどり会	8名	・ 川北町写真協会	23名
・ 民舞協会	10名	・ 川北町大正琴の会	31名
・ 手取亢龍太鼓保存会	39名	・ 川柳かわらなでしこ会	8名
・ 川北町水墨画協会	10名	・ 比楽河撫子舞	19名
・ 盆栽山野草会	11名	・ フラワーアレンジメント	18名
・ 美箏会	6名		

教育委員会点検・評価及び今後の課題

- ・年に一回開催している芸能発表会は中止となったが、日頃の練習の成果を発表する場であり、そして会員同士の親睦の築かれる大切な活動にもなっているので今後も継続していきたい。
- ・文化祭のチャリティバザーは今年度中止となった。女性協議会より現状を鑑み、この事業について見直しの提案がなされている。
(課題)
- ・文化の日の講演会はコロナ禍によりケーブルテレビでの放映になったが、今後も町民が楽しみにしている講演会として、講師を選んでいきたいと考えている。
- ・各文化団体の活動の成果発表を、町文化センターを主会場に年間を通して行っている。素晴らしい作品を、より多くの人に鑑賞していただくために、広報を行う必要がある。

令和3年度 教育委員会点検・評価シート ⑩

社会教育関係	(10) その他の活動	担当	社会教育課
目 標	それぞれの専門分野での研修を深め、審議内容の充実に努める。		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館協議会運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月22日(月) 川北町文化センター研修室にて開催 ○ 図書館の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町図書館利用状況 令和3年度入館者数 18,436名(令和2年度比 +6,825名) 開館日数 295日(令和2年度比 +61日) ・ 蔵書冊数 70,437冊(内 購入冊数1,598冊) ・ 蔵書点検 3月1日～15日 不明本の確認及び、書架整理や廃棄本処理 ・ なでしこ広場 小学生を対象として、夏休み期間中に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 7月17日 としょかんにいこう 7月31日 サイエンスマジックショー 8月7日 ブックカバーでエコバック(工作) 7月21日～8月30日 夏休み読書マラソン大会 ・ おはなしかい 11月6日 親子5組が参加し、読み聞かせや手遊びを行なった。 ○ 文化財保護審議委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町指定の有形文化財など 中島神社本殿(中島 社殿の彫刻類 文久2年 1862年) 富田少彦名神社石祠(橋新 石造 二軒 江戸時代初期) 			

草深甚四郎墓碑（草深 寛政5年 1793年）

加賀雁皮紙製造技法（中島 加藤雁皮紙）

- ・3月の文化財保護審議委員会はコロナ禍の状況下審議案件がなく中止とした。

教育委員会点検・評価及び今後の課題

- ・図書館管理システムを運用し蔵書点検を効率的に行えた。また、オンラインによる予約サービスの利用状況は181件（全体の利用予約数1069件）であった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、空気清浄機や網戸を設置した。
- ・図書館にある学習スペースは座席数に限りがあり、サンアリーナに場所を確保した。令和3年度の使用実績は113件であった。

（課題）

- ・例年、町の教職員や小学生を対象に「ふるさとめぐり教室」として町の有形文化財を訪れているが、コロナ禍のため一部教員対象とし見学地を限定して実施した。今後も、町を知ってもらう意味でも継続していきたい。

「令和3年度 教育委員会事務の点検・評価」について、学識経験者の方々からのご意見等

令和4年8月8日（月）
於 文化センター研修室

- コロナ関係で、丁寧な対応をされている。例えば、学校行事を工夫して行ったり、場合によっては中止の判断をしたりするなど、学校と相談して対応していることが評価できる。
- コロナで修学旅行の見直しがあったりするが、修学旅行を石川県の伝統芸能や作品に触れる機会として設定する方法もある。
- 小中学校での不審者対応として、一斉メールの配信など注意喚起に努めているが、不審者侵入の対策も講じて欲しい。
- コロナによる影響についてのアンケート項目「なかなか眠れない、夜中に目が覚める」の結果が、小学校低学年で12%（21人/170人中）であり人数の多さとその影響に、驚きと心配をする。
- イベントなどにマンネリ化の状況があり、時代に沿ったものに変えていく必要性を感じる。
- 川北音頭は保育所や学校の行事の中で取り入れ、小さいころから親しめる方法を考えてはどうか。
- 樺光学級は内容が多彩であり良いと思う。
- 先日の大雨で避難所が開設されたが、普段の授業中であつたらどう対応するかなど、地震対策だけでなく大雨に対する対応も考えておく必要がある。
- 学校教育において、川北町にプライドを持つ子どもたちを育てていただきたい。
- 現在行っている青少年教育のイベントや講座等、時代にあった内容への見直しや、運営の手詰まり感が感じられ、ダウンサイジングが必要に思われる。町民会議もふくめ、今こそ0から見直していくチャンスではないか。
- 男女共同参画事業は他市に比較して遅れているような気がする。